

第21回日本心エコー図学会学術集会を終えて

三神 大世*

I. 心エコー検査と日本心エコー図学会

超音波検査は、非侵襲的で簡便な画像診断法として、人体のあらゆる臓器・組織に応用され、今や臨床診断に確固とした地位を占めています。なかでも、速く大きく動き、内部に血流を湛える心血管系は、リアルタイム性とドプラ血流計測という超音波の優れた特長が最もよく生かされる領域です。ここでは、心エコー(心血管超音波)検査が、CTやMRIを大きく引き離し、画像診断のトップを独走しています。

日本心エコー図学会は、この心エコー検査の基幹学会として、それを実践・研究する医師・技師約4500名により構成されています。発足後20年を経た現在も年々会員が増え続ける、活気のある学会です。学術集会や学会誌を通じての学術活動に加え、年3回の定例講習会などの教育活動にも力を入れています。臨床検査技師を役員に積極的に登用するなど、医師と技師の緊密な連携・協調もその特長のひとつです。日本超音波医学会認定超音波検査士が、技師にとってのステータスから入口資格に変貌しつつある昨今、より高度のエキスパート技師を認定する専門技師制度を、他領域に先駆けて発足させたのも本学会です。

II. 第21回日本心エコー図学会学術集会

この日本心エコー図学会の第21回学術集会を、私が主催し、平成22年5月13日から15日の3日間、札幌コンベンションセンターで開催いたし

ました。桜をはじめ春を告げる花々が一斉に咲き出すこの時期、今年は例年になく気温は低めでしたが、会場内は熱気に溢れていました。今回は、3つの招請講演、4つのシンポジウム、9つの教育講演、7つの教育セッション、また9つの企業共催セミナーなど、たいへん盛りだくさんの特別企画を組みました(表1)。これらが、開始早々から3日目の夕刻の終了間際まで盛況で、有料参加者数は過去最高に肉薄する808名を数えました。さわやかな5月の風が吹きわたる北海道の大地で『心血管エコー: 優しい技術、力強いメリット』を元気にたっぷり語り合っていたことができたとと思います。

III. オフィシャルセッション

恒例の仁村レクチャーは、私が国立循環器病センターで薫陶をいただいた仁村泰治先生のお名前を冠する企画です。私の北大での恩師である北畠顕先生(北大名誉教授)に、この領域での日本の世界への貢献について、次代を担う若者への激励をこめてご講演いただきました。

また、吉田 清理事長(川崎医大)のご挨拶を皮切りに各種の表彰・認定式が行われました。本学会の英文機関誌である *Journal of Echocardiography* 論文賞を、私の仕事仲間である加賀早苗さん(北大病院検査・輸血部)が、技師として初めて受賞したことは、個人的にも、臨床検査技師教育に携わる一人としても、たいへん嬉しいことでした。

*北海道大学大学院保健科学研究所 病態解析学分野 mikami@hs.hokudai.ac.jp

表 1 特別企画プログラム

〔仁村レクチャー〕

Diastology におけるドブラ法の臨床的意義: 日本の研究貢献の軌跡 北畠 顕 座長: 千田彰一

〔招請講演〕

1. When echocardiography is better than MRI and CT? Jae K. Oh 座長: 鄭 忠和
3. How should we measure global and regional left ventricular systolic function? Reider Winter 座長: 吉田 清

〔シンポジウム〕

1. 大動脈弁狭窄症の治療における心エコーの役割 座長: 竹中 克、山田 聡
2. Dyssynchrony と再同期療法の評価をめぐる新しい展開 座長: 尾辻 豊、神崎秀明
3. リアルタイム 3D 心エコーの到達点 座長: 伊藤 浩、穂積健之
4. 左室拡張機能評価の新展開 座長: 増山 理、川合宏哉

〔スキルアップレッスン(初心者向け教育企画)〕

- 講演 1. 虚血をみるための考え方 伊藤 浩 座長: 小柳左門
 講演 2. 左室拡張不全における左室収縮能評価: 心時相解析の意義 木佐貫 彰 座長: 大木 崇
 講演 3. 血管エコーのてほどき: 横隔膜より上 西上和宏 座長: 山岸正和
 講演 4. 血管エコーのてほどき: 横隔膜より下 佐藤 洋 座長: 林 輝美
 講演 5. 感染性心内膜炎の病変を見逃さないには: ちょっとの注意で大きな効果を 芦原京美 座長: 羽田勝征
 講演 6. 左室肥大と「溜り病」: 厚くない肥大と厚い非肥大 湯田 聡 座長: 三神大世界
 セッション 1. 心エコー: 医師が技師に期待すること 座長: 遠田栄一
 セッション 2. 小児心エコー入門: 明日から役立つ小児心エコーのポイント 座長: 里見元義、森 一博
 セッション 3. ルーチン心エコー検査: 私はこの手順で最低これだけ検査する 座長: 那須雅孝

〔ステップアップセッション(中級者向け教育企画)〕

- 講演 1. Constrictive pericarditis: Paradoxical diastolic heart failure Jae K. Oh 座長: 別府慎太郎
 講演 2. 腱索断裂のみかた: Commissural scallop って何? 渡辺弘之 座長: 宮武邦夫
 講演 3. 大動脈弁狭窄の計り方: 気をつけることがこんなにもある 大倉宏之 座長: 岩瀬正嗣
 セッション 1. 方法が多すぎて困っちゃう? …私ならこれを選ぶ 座長: 田邊一明
 セッション 2. 最近のエコーラボを悩ませること 座長: 田内 潤
 セッション 3. 明日から始める負荷エコー: いっぱい画像をみてみよう 座長: 村上弘則
 セッション 4. 特殊心エコー検査: 専門技師をめざす人のために 座長: 増田喜一

〔先端技術セミナー〕

1. New horizons in 3D and quantitative echocardiography Reider Winter, Peter Lysyansky 座長: 吉田 清
2. これなら使える! “新しい” 3D エコー 岩倉克臣, 渡辺弘之
3. 2D スペクトルトラッキング法の現状と将来 竹内正明 座長: 山田 聡

〔ランチョンセミナー〕

1. 心臓再同期療法における心エコー図法の役割 伊藤 浩 座長: 吉川純一
2. クイズで学ぶ超音波の基礎 山田博胤 座長: 長瀬雅彦
3. 心不全の病態評価と治療: 心エコードブラ法と血漿 BNP 測定の意義を含めて 大手信之 座長: 別府慎太郎
4. 3D wall motion tracking 法は虚血診断に有用か?: 三次元心エコーだからわかること 高野真澄 座長: 尾辻 豊
5. 心エコーとともに知っておきたい心不全の病態からみた最新の治療戦略 筒井裕之 座長: 鄭 忠和
6. あなたのエコー室にこんな術後患者さんが来られても大丈夫ですか? Fontan 手術、Senning 手術、Mustard 手術、Jatene 手術 安河内 聡 座長: 竹中 克

IV. 招待外国人講演

米国心エコー図学会の代表として、この領域のテキストとして世界的なベストセラーである The

Echo Manual の筆頭著者として著名な Mayo Clinic の Jae K. Oh 先生をお招きしました。Oh 先生には、特別講演として循環器画像診断の中での心エコーの立ち位置について、また、教育講演として収縮

性心膜炎の心エコー診断について、それぞれ明晰かつ含蓄に富むお話をいただきました。ヨーロッパ心エコー学会からは、スウェーデン Karolinska University の Reider Winter 先生にお越しいただき、心筋収縮機能と3次元心エコーそれぞれにつき、新鮮で魅力的なご講演をいただきました。また、昨年米国心エコー学会 YIA の受賞者である米国ポートランドの Chad L Carr 先生にも、美しいプレゼンテーションを披露していただきました。

V. シンポジウムと一般演題

シンポジウムとして、「大動脈弁狭窄症の治療における心エコーの役割」、「Dyssynchrony と再同期療法の評価をめぐる新しい展開」、「リアルタイム3D心エコーの到達点」および「左室拡張機能評価の新展開」と題する4つのテーマを行いました。第1会場は参加者で埋まり、既に指導的な立場の先生方と新進気鋭の若手の先生方が入り混じり、最先端の知見が披露され、熱気に満ちた討論が交わされました。

また、本学術集会では過去最多の260題の一般演題を発表していただくことができました。この領域の活力の大きさを感じ、心強く思います。一方、今回は特別企画が多かったため、口演セッションはほとんどが第2、第3会場での同時進行、しかもシンポジウムや教育企画との並行開催となってしまうました。このため、特別企画が盛況の反面、一般口演発表に参加しにくいスケジュールになってしまったことが心残りです。ポスター発表は、口頭発表が7~8組の同時進行となりましたが、広いスペースのおかげで円滑に進みました。口演、ポスターとも、座長の先生方やフロアの方々のご協力で、長めに用意した討論時間を有意義に使っていただくことができたと思います。

VI. 教育的企画

教育企画の豊富さは、本学術集会の大きな特徴のひとつでした。先に触れた本学会主催の定例講習会は、神戸(夏、上級)、東京(秋、中級)、大阪

(冬、初級)の固定開催で、しばしば満員札止めとなる人気を誇っています。北海道からはるばる参加する方もおられますが、到底、需要を満足できているとは思えません。そこで、今回の学術集会にこの定例講習会の要素を盛り込み、地元の若手の皆さんに大いに勉強してもらおうというのが、私の密かな狙いのひとつでした。

初心者向けの「スキルアップレッスン」では、明日の検査や診療にすぐ役立つ知識とスキルを学ぶ6講演と3セッション(12講演)を、中級者向けの「ステップアップセッション」では、さらにステップアップするためのノーハウを扱う3講演と4セッション(17講演)を行いました。さらに、企業共催企画として、「先端技術セミナー」では、最新の超音波技術とその先駆的な臨床応用を展望する3企画を、また、ランチョンセミナーには循環器病診療と超音波との関わりを意識した6企画を行いました。多士済々の医師・技師のエキスパートの方々が、多彩なテーマについて、平易に、熱く、またときには楽しく語っていただきました。これらの教育的企画にも、私の目論み通り、たいへん多数のご参加をいただいたことを嬉しく思います。

VII. 準備・運営にご協力いただいた方々

学術集会の準備運営には、本学会役員を中心とする企画アドバイザーの方々、ならびに北海道内のエキスパートで構成した実行委員の方々に、多大なご協力とご支援をいただきました。また、裏方では、事務局長を勤めてくれた小野塚久夫准教授(北大保健科学研究院)をはじめ、山田 聡講師(北大循環病態内科学)や加賀早苗主任技師(北大病院検査・輸血部)を核として、北大病院心エコー室に集う3部局のスタッフの皆さんに準備・運営を担っていただきました。さらには、私どもの大学院である保健科学院の5人の博士・修士の学生の皆さんも、アルバイトの学部学生たちを率いて、獅子奮迅の活躍をしてくれました。この場をお借りして、皆様のご協力、ご支援に心から御礼を申し上げたいと思います。